

平成30年度 第1回清瀬市男女共同参画センター運営委員会 議事録

日時：平成30年7月31日(火) 午前10時～12時30分

会場：男女共同参画センター 会議室1

委員出席：11名

池田委員 堤委員 布施委員 桑山委員 吉田委員 兵頭委員
伊藤委員 近藤委員 片寄委員 矢ヶ崎委員 今村委員

欠席：1名

高橋委員

事務局： 福田センター長 高田

1 男女共同参画センター長 挨拶

新プランが完成した。これに基づいて業務を推進していきたい。働き方改革等ますますアイレックの存在意義が大きくなっている。新メンバーで集まるのは初めてですが二年間よろしく願います。

議 題

(1) 自己紹介、委員長・副委員長決定

新委員長に桑山委員、副委員長に池田委員が就任した。

(2) 清瀬市男女平等推進プランについて

センター長

- ・今回、清瀬市男女平等推進プランが策定された。これから10年間の男女平等施策の指針となるものです。「配偶者からの暴力及び被害者保護のための基本計画」と「清瀬市女性活躍推進計画」の2つの計画を含んだものになっている。条例に基づいて策定されたもので男女平等条例第3条の基本理念をもとに、4つの目標を設定しました。

目標1「男女共同参画によるワーク・ライフ・バランスの実現」

目標2「人権の尊重とあらゆる暴力の防止」

目標3「あらゆる分野における男女共同参画の推進」

目標4「プランの積極的な推進」

今後、高齢化が更に進むことが予測されるが、そのような社会情勢にも対応できるように策定しました。

以下、目標の下に位置付けられた事業や数値目標について説明をした。

委員

- ・せっかく計画を立てても行動が伴わなければ意味がない。DV相談の件数が増加していることを鑑みても、まだまだ男女参画を世に訴える意味があるのではないか。現実的でない目標はかえってパフォーマンスのようにも見える。

センター長

- この計画は五年後に一度見直しを行う。そのようなご意見は是非、男女平等推進委員会でも検討の上、見直し時に取り込んで反映させたい。

委員

- 市役所の女性管理職割合の数値が低いのは理由があるのか。

委員

- 女性職員の価値観も多様化しているので管理職になるという目標だけではなく現在のライフスタイルを崩さずに働くという目的で勤めている職員も多いのではないか。管理職自体が魅力的であれば率は上がるのではないかと。

センター長

- 特定事業主行動計画が清瀬市でも先行して定められている。女性管理職割合についてはその計画をもとに作成した。一朝一夕には上がる率ではないので段階を踏んで上げていく計画です。現状の率と目標値を示させていただきました。

委員

- 職員の年齢分布も影響があるのではないかと。財政が厳しかった時に十年近く職員を退職者不補充という形で採用しなかったことがある。ここ数年でやや健全な年齢分布に戻る見込みなので全く無理な計画というわけではない。

(3) 平成 29 年度の事業報告と平成 30 年度の事業予定

別紙参照

- 会議、相談実績、公演・講座・セミナー事業、図書、会議室等事業を報告した。
- 平成 30 年度から
男女参画センター運営委員会、男女平等推進委員会が各一回ずつ減少
Ms.スクエアの発行も一回減少
働き方サポート相談については講座とリンクした形で開催
女性起業関連事業の開始
アイレックまつりの一部縮小開催
以上の変更点に触れた。

委員

- Ms.スクエアの発行が一回減ったことについて重大なことと思える。女性起業関連事業に予算がついていることを思えば、ここで広報の予算を減らす意味がわからない。全戸配布の広報手段を減らすことは男女平等推進を後退させることになる。

委員

- そもそも、この委員会の位置付けがわからない。年一回、事業の報告を聞かされて何をすればいいのか。十分に議論の出来ない様な委員会は形骸化しているのではないかと。

委員

- 運営委員会については市内全てのものについて一律一回の開催にした。報告を聞くだけの運営委員会もあれば活発に議論のある委員会があることは承知をし

ている。運営員会の活動に濃淡がある中で行政としても問題提起をしたいという主旨です。議論の中で回数を増やすべきだという意見があれば、行政側でも検討すべきということです。

広報誌Ms.スクエアについては市民の皆様はどういったら男女共同参画を進めていただけるのか図っていく中で広報手段は大きな柱になると認識している。ただMs.スクエアが市民の皆様が届いているのかと数字で見たときに世論調査ではMs.スクエアを読んでいる人の割合が非常に少ない。ただ発行することで目的を達成出来るのではなく読んでいただくことで市民の皆様の心に留まって気持ちが変わっていかなければ費用対効果の効果の部分が出てないという事だ。ただ広報誌で全戸配布をしているからそれでいいということではなくて若い人たちに読まれていないという事が数字でわかっているという事であればもっと違う方法でアイレックがやっていることの広報手段を考えなければいけないということになる。例えばSNSが流行っておりますが、そういった手段を考える中で紙媒体のMs.スクエアについては年2回でどうだろうという結論になりました。要は費用対効果の効果の部分をどうやって上げていくのかを考えなければいけない。編集発行して終わりだけでは意味がないということでMs.スクエアについては年2回にさせていただきました。アイレックの予算的には起業支援というところに配分させていただき課全体としては増加させていただきました。市の予算としては全体の歳入・歳出の数字は決まっているので何か力を入れたら何かは減らさなければいけない。女性の起業支援については昨年まで沿線3市連携でやっていた事業を更に発展させる形で国の地方創生の方向性と合って交付金も貰えるという中で来年度はここに力を入れていこうということで予算編成をしています。そうした中でいままでやってきたアイレックまつりを少し縮小したり、広報誌Ms.スクエアがしっかりと効果が出ていないのであれば少し見直しをかけようということで予算は全体を見る中で調整をしている。いろいろな意見を伺う中で30年度の予算の考え方としてはこういう内容で編成をさせていただいた。

委員

・運営委員会ということであれば報告を聞くだけでなく予算の内容の要求についても関わるべきだし、Ms.スクエアについては編集委員をやることで男女共同参画についての人材育成にも寄与している部分も考慮していただきたい。発行回数が減ることで問題に取り組む回数が減る事にも繋がる。効果だけでなくこういったことも考えていただきたい。

委員

・Ms.スクエアの編集委員制度についても議論の中に出ていたんですが、人材育成の内容は実感しているので、そこについては今まで通りとしました。

委員

・この委員会で予算内容の報告を受けるだけでなく予算を審議するためには一回開催ではとても難しい。

委員

- ・プランの話に戻るが自分の民間時代の経験で東京都に会社が指導を受けたことがあったが市は企業には働きかけを行わないのか。

センター長

- ・アイレックは事業所に対する働きかけが弱い。事業者に対してだと産業振興課との連携が考えられるのですが、実は実績がありません。沿線3市連携で女性起業の広報をしたり、事業者向けの講座も開催はしましたが、その時に初めて商工会とコンタクトをとった。今後、プランにも掲げている女性活躍推進を考えるとこれから着手しなければならない。いろいろな補助金にかかわる部分は東京都等、行政がかかわりやすい部分だが男女参画の関係でそのような部分は弱い。委員を推薦してもらうことも一つあるが、今まではその団体の意向を重視した結果、強く言うことが出来なかった。ただ、防災分野が変わったようにスポット的には世の中の動きに対して変わってきた部分がある。清瀬の産業としては農業もあるが農業に対してもアプローチの仕方を考えている段階。

委員

- ・開催回数の話に戻るが、予算と事業の内容報告を聞いて運営委員に何をやらせたいのか。委員の意見が反映出来ないのであれば二回開催であったとしても開催時期にも問題があるのではないか。

事務局

- ・予算の要求は時期が決まっている。秋に次年度の要求をするのが役所のサイクルなので来年の事業に反映させるのであれば、その時期までにはご意見をいただきたい。

委員

- ・話し足りない部分があるなら、今年度ももう一度委員会を開くべき。この一回の集まりを運営委員会というのはいかがなものか。

委員

- ・今年度もう一回委員会を開催したいということであれば事務局としては必要な事務は行います。

(4) 予算について

センター長から予算内容についての説明を行った。

平成29年度については新プランの印刷製本費50万円が含まれている。

平成30年度についてはLED工事費100万円が含まれている。

広報誌に対する予算は先程、議題にのぼった通り減っている。

アイレックまつりは半減している。費用は一日分のみ。

起業支援事業の内容説明を行った。この事業にかかる費用の半額は国の交付金で行う。

委員

- ・やはり運営委員会が一回の開催では議論が足りないのではないかと。特に予算で起業支援事業についてMs.スクエア関連が減額されているのが納得しきれない。SNSを活用するという意見もあったがそのための予算も付いていない。

広報は重要である。

委員

- ・議題がしっかりあるなら、もう一度開催することには賛成する。

委員

- ・今回の委員会では予算については事務局から内容報告して、来年度に向けたご意見をいただくのが眼目です。ただ予算査定にも理由があって行われるので、来年度再度減額になった予算を要望するなら予算査定の理由を論破できるような準備をしなければならない。具体的な提案をいただくと事務局としては内容を予算に上げやすい。減額になった部分を復活させるのであれば、ただ元に戻すのではなく査定する側を納得させられる内容を用意しなければならない。

委員

- ・実効性のある委員会にするなら市側も、それなりに市民から意見を聞く姿勢を用意すべきで、ただ開催するだけではパフォーマンスととられかねない。市の姿勢が問われている。

センター長

- ・今のご意見のような内容であるので今年が非常に大事になる。何のために必要なかを活動しながら見せていかなければならない。催す側も参加する側も何が課題なのかを洗い出して討議し、それを発信したい。

委員

- ・一回開催では何を課題にして討議するかという意見すら出てこない。

委員

- ・予算について意見を出すのに資料が必要ではないか。

センター長

- ・予算の検討資料については用意します。この予算についての委員の皆様のご意見が問われている時期だと思われます。

※日程調整の結果、以下の日程で運営委員会を行うことになった。

次回運営委員会日程について 平成30年10月3日(水) 午後2時～4時